

打球がユニホームに入り込んだ

2024/8/31

友人との審判談義で「3 ストライク目の投球が捕手のマスクに挟まった場合や、打球が（投手の）ユニホームに入り込んでしまった場合、どう処置するか。」ということが話題になったので、「野球審判マニュアル」や「規則適用の解釈」を参照に処置を再確認してみよう。

「「野球審判マニュアル」には「打球または送球が偶然選手またはコーチのユニホームの中には入ったり、あるいは捕手のマスクまたは用具の中に入り込んだりしたら（捕手のマスクまたは用具の中に挟まって止まった場合を含む）、審判員は“タイム”宣告する。そして、審判員の判断で、走者を次塁に進めるか、その塁に留めるかの処置をする。走者にアウトが宣告されることはない。（定義15）なお、送球によってこのような事態が生じた場合、**進塁させる基準は、送球が（最後の）野手の手を離れたときとする。**」「ファウル飛球を捕手が……捕球しようとしたボールがプロテクターと身体の間に入った。……ファウルボールとするのが妥当である。」

競技者必携の「規則適用の解釈」の（17）「打球または送球が偶然選手またはコーチのユニホームの中には入り込んでしまった場合（あるいは捕手のマスクまたは用具に挟まって止まった場合）、審判員はタイムを宣告し、ボールデッドにして打者には一塁を与え、審判員の判断ですべての走者に対して塁に留めるか、進塁を認める。このプレイで走者がアウトにされることはない。なお、送球によってこのような事態が生じた場合、**進塁させる基準は、送球が最後の野手の手から離れたときとする。**」

競技者必携の問題の解答では、**投球が球審または捕手のマスクに挟まった場合には、「走者は1個の塁が与えられる。」**とある。

以上によると、ユニホームの中に入り込んでしまった場合、打球も送球も、走者を進塁させるとしたら、**テイク1（次塁）**であるという事である。くどいようであるが、ボールデッドの箇所に入り込んだときの様に**テイク2**ではないという事を強調しておきたい。（太字と下線は筆者が付けたもの）5.06b(4)(I)、5.06c(7)、5.09a(3)【注】

では、走者を次塁に進めるときは、どのようなときだろうか？例えば走者に盗塁行為があったとき、内野手が打球を処理しようとしてユニホーム内にボールが入り込んでしまったら、走者を次塁に進めないと不公平であろう。

ボークに対する疑問

2024/8/28

侍ジャパン U18 総合試合 高校日本代表 対 大学日本代表 の試合が TV で放映されていた。大学側の攻撃のとき、セットポジションをとった左投手が自由な足はそのまま地面に付け、軸足を外すのと同時に両手を離して一塁へ牽制球を投げた。どの審判員もボークをコールすることなく試合は進んでいった。ボークを取らなかったな？と思い、取れなかったのか取らなかったのかどちらだろうと考えた。9月から始まる U18 アジア選手権を控えてのオープン戦である。日本のアマチュアではボークとしているが、外国では NPB 同様ボークとしていないのではないかという考えが浮かんできた。国際試合になるとルールの解釈の違いがあるため、壮行試合に臨むにあたり、審判員は細かく神経を使っているのだろうと想像した。

ダブルベース

2024/9/3

今年の 10 月に開催される NPB12 球団の二軍の教育リーグであるフェニックスリーグで、試験的に一塁にダブルベースを導入するというニュースが流れた。選手の交錯によるけが防止を目的にファウルゾーンに走者専用のベースを増設するもので、ソフトボールでは既に採用されており、守備側の選手は従来のベースを使用するが、打者走者は内野ゴロではファウルゾーン側のベースを駆け抜けることになっている。長打の場合や一塁走者として帰塁する際は従来側のベースを使用。審判員の側からの意見としては、もともと 1・3 塁ベースをファウルラインの内側に入れた理由は、打球がベースに当たった場合にフェアかファウルの判定に困ったからだが、打球がダブルベースの真ん中付近に当たった場合の判定の難しさやホースプレイ時に一塁手の足がベースについていることを確認しながら、打者走者の足と捕球のどちらが早いかを判定する場合の視界に従来と違いがあり、不慣れな視界で判定しなければならない点にやや難しさを覚えるが、安全を考えるとダブルベースの方がベターだろう。さて、

選手や審判員たちからどのような感想が出るだろうか？MLBではベースを大きくして安全性も確保しようとしたが、日本でダブルベースが採用されるようになった場合、MLBでも採用への影響が出るだろうか？

球場アナウンサーが球審を呼ぶ

2024/9/16

中学軟式野球クラブチーム選抜東海大会（3年生大会）は、一昨日の9月14日（土）に安城総合運動場で23チームが参加し開会式が行われ、1回戦は無事に消化された。しかし、昨日予定されていた2回戦と準々決勝は雨で延期となり、今日、安城総合運動場A・B面で各4試合ずつ行われた。天気予報では最高気温34度と報道され、9月中旬になっても相変わらず暑いなかで試合が行われた。

A面の第一試合の後半では、捕手の動きが鈍くなり辛そうな様子が見受けられたため、給水タイムを入れながら試合は進められた。第三試合では愛知県のチームが富山県のチームを連打と脚を絡めた攻撃でリードしながら試合が進行していった。守備側の富山県チームの監督がタイムを要求して、選手の交代を球審に以下の様に告げた。「ピッチャーがショート、ショートがセカンド、セカンドに代わってピッチャーに背番号3の●●が入ります。そしてレフトに背番号14●▲が入ります。」球審は場内アナウンサーにそのように告げ、場内アナウンスがながされて、次打者の名がアナウンスされ試合が再開された。そして攻守交代になったとき、アナウンサーに球審が呼ばれ、先ほど守備位置の交代が告げられたポジションに異なる背番号の選手が入っているというのである。一応、富山県チームの監督を呼び、監督の申し出と異なる選手が守備についていたことを確認したうえで、監督が告げていない野手の交代は、プレイがかかった時点で認められてしまっているが今後注意してもらうように告げた。アナウンサーには、守備位置だけ移動した選手の打順は変わらないので、新たに入った野手が打者としてバッターボックスに入るときに背番号を確認してアナウンスしてもらうように告げて、残り時間が少なくなっている試合を続けることとした。

先日、喫茶店で試合後の反省会中に「追い越しアウト」の話題が出た。どのような状態になったときに追い越したと判断したらよいのだろうかというのだ。

硬式野球では飛球の滞空時間が長いため、例えば、走者1塁のときに打者が右中間にフライを打った時に1塁走者が1・2塁のハーフウェイで止まって打球を観て居るところへ打者走者が勢いよく走って来て、1塁走者と打者走者が重なりそうになったケースがあったが、飛球がキャッチされ追い越しアウトにならなかった。いつもどの時点で追い越しと判断すべきか悩んだことを思い出した。四人制での試合であったので、1塁塁審が打球判定に行き、2塁塁審が1・2塁間に移動して両方の塁のプレイを受け持つのだが、塁審の位置により追い越したかどうかの判断が若干ずれることは否めない。さて、喫茶店での井戸端会議では、後位走者の上半身が前位走者よりも出た状態になれば追い越しアウトを取らなければならないという意見でまとまったのだが、さてこの答えで正解かどうかインターネットではどんな意見が出ているか調べてみることにした。

すると以下のような意見がヒットしたので、紹介してみよう。

『元プロ審判の岡田功氏の著書によると、「追い越し」の定義は、「身体の大部分が前位走者より前へ出ている状態」で、足や腕だけが前位走者よりも前へ出た程度では「追い越し」とはみなさないとのこと。いわゆる「胴体部分」が前方に出ることが「追い越し」であり、あくまでも「走者の順序が入れ替わる」という認識が重要であるということだと書かれています。』とあった。

また、NPBでは、2アウト満塁のとき、打者がサヨナラホームランを打ち、1塁を回ったところで1塁走者と打者走者が抱き合って喜んだときに身体が入れ替わり、追い越しアウトとなって、3塁走者の得点1点のみを認めて試合終了となった事例があったらしいが、「追い越し」の定義について詳しく記述されたものは、見つけることができなかったが、栗村哲志氏監修の「わかりやすい野球ルール」では、『「ランダウン中に塁を走り越す」例 1アウト走者2・3塁。スクイズ失敗で3塁走者が三塁本塁間に挟まれランダウンプレイとなる。その間に2塁走者は3塁に到達した。3塁走者は触球されずに3塁に戻ってきたが、左翼方向に塁を踏み越えてしまった。』

→通常は身体が入れ替わらないと「追い越しアウト」ではないが、この場合に限り塁を踏み越えたところで追い越しとみなし、後位の走者（2塁走者）をアウトにする。踏み越したかどうかは審判員の判断。』と記されている。このケースでは、審判員が3塁走者を走塁放棄としてアウトを宣告すれば、2塁走者は追い越しアウトにならないが、走塁放棄を取らない場合は、2塁走者を追い越しアウトにしなければならないことを記憶にとどめておかなければならない。

ドジャース大谷選手の二塁空過

2024/9/29

ドジャースの試合は残り2試合となり、大谷選手のホームラン数、盗塁数だけでなく、打率でもナリーグの首位打者を狙えそうな位置まで迫り注目が集まっている。

そんな折、Yahoo!ニュースの記事で『ドジャース・大谷翔平投手（30）が28日（日本時間29日）、敵地・ロッキーズ戦に「1番・指名打者」でスタメン出場し、初回先頭の1打席目は右翼フェンス直撃の安打を放った。前日から5打席連続安打で打率は3割1分1厘になった。

だが、その後ベッツの打席で二盗を狙ってスタートを切ったが、ベッツは一邪飛。だが大谷は、二塁を踏んで越えたところから二塁を踏まずに一塁に向かってしまった。ボールは一塁に送られて』とあり、大谷選手は送球より早く一塁に帰塁した。さて、あなたが一塁審判員ならどうジャッジするだろうか？

この試合の審判員は「セーフ」とジャッジ、そこで、ロッキーズの野手は二塁にボールを送球してアピールし、アウトとなった。

ここで大切なことは、一塁での判定は送球と走者のどちらが早かったのかを判定することである。二塁の空過のアピールは二塁の審判員が判定をすることを忘れてはいけないということだ。

もし、上記のケースで1塁塁審がセーフのコール後に、1塁手が大谷選手にタグして2塁空過をアピールしたら、1塁審判はどのようにこのアピールを処理したらよいのだろうか？ 勿論、2塁の審判員に2塁空過に対するアピールがされていることを伝え、その裁定をゆだねなければならないことになる。

2024/10/12

今日の球審のハーフスイングをストライクのメカニクをしながら「スイング」とコールしていた。このときのコールの発声が小さいため、投球判定でストライクなのかスイングを取ったのかが不明瞭だった。上記のメカニクは、投球がストライクのときに行うメカニクである。ハーフスイングを取った場合は、打者をポイントしてから、「イエス、ヒー、ウエント」とコールしてどのようなストライクであったのかをはっきりさせよう。わかりやすいジャッジをすることを心がけよう。

攻撃側の監督からメンバーチェンジの申し出があったとき

2024/10/12

表題のタイム中、球審が監督の対応しているときであった。捕手がマウンドに走って行き投手と何やら話す場面が見受けられた。球審はメンバーチェンジを相手方である守備側の監督に告げた後、試合を再開した。先ほど、捕手と投手の話し合いは守備側の作戦タイムにカウントされないで試合が再開されてしまったのである。球審は一つの仕事をこなしているため、注意が他に行きにくい場合、塁審が守備側の作戦タイムをカウントするのかどうかを観察していなければならない。そして、球審に作戦タイムをカウントするように伝えなければならないのである。塁審も協力して試合をコントロールしよう。

監督からの質問に悩む

2024/10/13

ある審判員が、試合前に監督から、以下のような質問があり、返答に困ったという事であった。では、その内容はどんなものだったのだろうか。

「先発投手が足首を捻り完治はしたが、不安があるので足首にサポーターを巻いて登板させてもよいか」というものであった。このような質問は初めての経験でダメとも言えず、相手チームの監督の了承があれば登板させても良いと判断して、登板させたそうだが、関連事項が規則書や競技者必携に載っていたら教えてほしいという依頼であった。

6.02(c) 投手の禁止事項を見ると以下の様に明記されている。

(7) 投手がいかなる異物でも、身体につけたり、所持したりすること。

【原注】投手は、いずれの手、指または手首に何もつけてはならない（たとえば救急ばんそうこう、テープ、瞬間接着剤、ブレスレットなど）。審判員が異物と判断するかしないか、いずれの場合も、手、指または手首に何かをつけて投球することを許してはならない。

【注】我が国では、本項〔原注〕については、所属する団体の規定に従う。

とあり、問題になるのは、「手、指、手首」である。